

DX 人材と公務員採用

昨年までは DX という言葉を聞かない日はなかったが、昨今はそれほどでもないようだ。新たなパスワードを作り続けるという IT 業界特有のモメンタムもあって、最近では GX, CX というワードが流行っている。しかし、DX が騒がれなくなった別の理由もある。2018 年に総務省が DX を国を挙げて取り組むべきと提唱した割には、DX の取り組みが盛り上がらなかった。現に総務省はそれから 2 年経過した 2020 年の中間報告書で、組織を作って DX に取り組んでいる市町村自治体は 12.6%にとどまると、報告している。

改めて公共における DX とは何なのか、識者がどう言っているのか確認してみた。DX の提唱者であるストルターマン教授は自治体の DX について、こう言っている。

【 DX は既存の仕組みや手続きへの挑戦、より住民本位の革新的な解決策を協働で考えることを促す。DX を推進するためには、組織のあり方や文化を革新的、アジャイル、協調的に変革することが必要である。】

また、総務省は 2020 年の報告書でコロナ禍での自治体の DX の意義をこう書いている。

(1) 【 新型コロナウイルス対応において、地域・組織間で横断的にデータが十分に活用できないことなど様々な課題が明らかとなったことから、こうしたデジタル化の遅れに対して迅速に対処するとともに、「新たな日常」の原動力として、制度や組織の在り方等をデジタル化に合わせて変革していく、言わば社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）が求められている。】

なにやら難しい解説をされても、具体的に何をどうすべきかについて思いつくことは難しい。この大きな理由の一つはデジタルという得体のしれないキーワードがDXの全面に出てくるからのように思われる。DXの推進担当者がデジタルとは何なのかを問い直し、自分の言葉として落とし込んでおかなければ、DXを推進することは難しい。

では改めてデジタル化とは何だろうか？

ネットをググっていたら、うまい説明をしているサイトに当たったので紹介する。この説明では現実の作業をアナログ、コンピュータ上の作業をデジタルと称して説明している。

(3) 【 現実世界（フィジカル世界／Physical World とも言う）の「ものごと」や「できごと」は、全て「アナログ」です。例えば、時間や温度、明るさや音の大きさなどの物理現象、モノを運ぶ、誰かと会話するなどの人間の

行為もまたアナログです。しかし、アナログのままではコンピュータで扱うことはできません。そこで、コンピュータで扱えるデジタル、すなわち 0 と 1 の数字の組み合わせに変換する必要があります。**すなわち、アナログな現実世界の「ものごと」や「できごと」を「コンピュータで扱えるカタチ」すなわち、デジタルで表現し直すことが、「デジタル化」です。**

デジタルには、次の 3 つの特徴があります。

- スピードが早い：
- 複製しても劣化しない：
- 組合せや変更が容易： 】

詳細は元資料を読んでいただくとして、作業スピードが速ければ効率的だし、変更が容易であれば応用が利く。こうしたデジタルの特徴を業務改革に生かすことが DX だと思い直せば、DX の見方も変わるのではないか。

では、実際の自治体で DX を推進している担当責任者の方は現場でどのように DX を推進されているのだろうか。

幾つかのセミナー参加し、そこでお聞きした DX 推進責任者のお話を以下の様にまとめてみた。

S市 市長さんの話：我が市では職員には対面業務の問題点を出してもらい、DXの具体化は民間の業者にお願いしている。

K町 DX推進責任者の話：今後のことを考えれば、直接の対面の業務をするよりは、住民自ら使える行政サービスのプラットフォームを作ることが重要だと思っている。プラットフォームも世の中に既にあるものを上手に利用すればよい。

M市 DX推進責任者の話：時間や場所に制約されない市民サービスシステムを作るのが仕事だ。そのためにデジタル技術をつかい、業務環境を整備していく。

M市 教育センター長の話：3Dネイティブ世代は自然とデジタルに馴染んでいる。今後のデジタル人材不足の心配はしていない。

S県 デジタル局参事の話：CGなどのデジタル技術により、堤防改修計画などに当たって、素早い住民の合意形成に役立てることができる。目的がはっきりしていれば、DXは進めやすい。

これらの話を総合すると、自治体におけるDX推進で重要なことは、デジタル技術そのものと言うより、課題の発見であり、どう解決すればよいかのアイデアである。どのようなデジタル技術を使うかはその次の問題ということだ。業務に携わる現場の人間にはわかりやすい話である。

いみじくも、K 町の DX 推進責任者の方が言っておられたお話が印象に残る。[私はこの町で生まれ育ったのですが、一時期、都会に出ていました。Uターン組です。この町が好きで、人口減少とかこの町には問題はいっぱいあるのですが、何とかしたいという思いは人一倍強い。そういう気持ちがあれば、DXの推進はできると思う。]

結局、DX推進人材に必要なことは、地元愛であり、課題を何とかしようという熱意である。(4)必要なデジタル技術は後から習得できるし、不足していれば外部の力を借りればよい。最初から、デジタル技術について勉強しなくてはなどと考えると、DXは知らない事ばかりの難しい作業になって、一向に進まないという事になってしまう。

【参考資料】

- (1) 自治体デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進計画【第 2.0 版】 総務省
https://www.soumu.go.jp/main_content/000835260.pdf
- (2) 自治体における AI 活用・導入ガイドブック<導入手順編> 総務省
https://www.soumu.go.jp/main_content/000820109.pdf
- (3) デジタルとは何か ～ DX を語る前にまずは「デジタル」の意味を知っておこう | ネットコマース株式会社 (netcommerce.co.jp)
<https://www.netcommerce.co.jp/blog/2020/09/27/16091>
- (4) 次世代の地方公営企業経営を革新する経営力向上のためのデジタルサービス デロイト トーマツが独自に開発したデジタルソリューションで地方公営企業の経営改革をサポート
<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/public-sector/solutions/lg/digital-services-for-local-public-enterprises.html>